



子どもが 自分らしさを 輝かせるために



大人のあたたかい関わりが
子どもの笑顔をつくります

作成：福井県教育委員会
監修：仁愛大学人間学部心理学科
福井県幼児教育支援センター

発行：令和4年4月

アンケート結果

県内各市町の小学5年生と中学2年生(約 2500 人)を対象に、家庭での大人との関わりや子どもの自己意識についてアンケート調査をしました。(詳しくは別紙「調査概要・調査用紙」参照)

親との関わり

☆親とは、父母や祖父母など日常的に関わっている大人をさします。



- 日頃、親と話す
- 親は話を聞いてくれる
- 親は自分の気持ちを理解し尊重してくれている
- 親にほめられる

「当てはまる」
「どちらかといえば
当てはまる」が
小・中学生ともに
約9割

子どもの自己意識



- 好きなこと、得意なことがある
- 友達と協力するのは楽しい
- 人の役に立つ人間になりたい
- きまりやルールを守っている

「当てはまる」
「どちらかといえば
当てはまる」が
小・中学生ともに
約9割

- インターネット(SNS、ゲーム、動画など)を使っていて、やめたい時にやめることができる

「やめることができない」
「どちらかといえば
できない」が
小・中学生ともに
約2割

- 平日、家でインターネットを2時間以上使っている

小学生 約4割
中学生 約5割

親がどうしてくれるとうれしく思うか

小学生

- ・良かった時、ちゃんとほめてくれる 54%
- ・いっしょに遊んでくれる 46%
- ・何があっても味方でいてくれる 43%
- ・自分がやりたいことを
応援してくれる 39%

中学生

- ・自分がやりたいことを応援してくれる 53%
- ・何があっても味方でいてくれる 46%
- ・良かった時、ちゃんとほめてくれる 47%
- ・あれこれ口を出さず
自分を信じて任せてくれる 39%

家庭教育で



育みたい子どもの姿



自分も人も大切にする子

自分を大切にできる人は、
ポジティブ思考で自分や人を肯定的に見たり、
自分で考えて行動できるようになります。
また、自己肯定感が高まると、人の気持ちも
大切にできるようになります。



子どもが親から
「愛されている」
と実感することが
自己肯定感に
つながります。

前向きにチャレンジする子

チャレンジ精神が旺盛で
何にでも積極的に取り組めると、
自分のもっている可能性を
伸ばしていくことができます。



過保護・過干渉は逆効果。
自分で考え、行動し、
達成感を味わう経験や
失敗から学ぶ経験
が大切です。

思いを表現する子

自分の思いを表現することができると、
人とのコミュニケーションが豊かになり
人間関係を広げていくことができます。

中学生は、理想と現実のギャップに
悩む時期ですが、多様な人と出会
うことで世界が広がります。

豊かな体験で
子どもの感性を育て、
家庭で安心して
自分を表現できる
環境をつくりましょう。



育みたい子どもの姿を実現するための

親の関わり3つのポイント



① 人として尊重する

子どもも、人格をもった一人の人間であり、
十人十色の個性があります。



あなたはと思う？
どうしたい？

その考えいいね！
思うようにやっごらん。

② 気持ちを受けとめる

はじめから否定せず、まずは子どもの立場に
なって共感しましょう。



そんなことを言われたら
悲しいよね。

うれしかったんだね。
良かったね！

③ 良さを見てほめる

一人一人、それぞれに良さがあります。
人と比べず、良いところを見て、具体的に
ほめましょう。



最後まであきらめず、
一生懸命に走れたね。

ゆっくりだけど、
丁寧にがんばってるね！

正しい行動を教えることも 大切です



- 間違っことをした時には、何が良くないか、
どうするとよいかを考えさせましょう。
- 良くなった時を逃さずほめましょう。
- 大人が手本の姿を示しましょう。

みんなが困ってるよ。
どうして分かるかな？
考えてみて。

みんな静かにしているよね。
相手の立場になるのが大切だよ。

ちゃんと～してえらかったね。
やればできる！